

公立大学法人沖縄県立芸術大学
第 1 期中期目標期間
(見込評価)
業務実績評価書

令和 7 年 9 月
沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会

I 全体評価

1 全体評価の総評

令和6年度における第1期中期目標の達成については、中期計画に基づいた年度計画を順調に実施しており、着実な業務の進捗状況にあるものと評価する。

2 第1期中期目標について、評価できる点（優れた点、特色ある点）

教育の成果については、ディプロマ・ポリシーの記載内容の点検、カリキュラムマップ及びコースツリーとの整合性・一貫性を確認するなどの取り組みを行った結果、卒業時・修了時の調査において学修成果を得られており、教育の成果について目標を上回る成果を出している。

また、就職率の向上に向け、キャリア教育、企業説明会、インターンシップなど、学生へのきめ細やかな就職支援を行っており、成果を上げている。

情報公開の推進については、組織的な広報推進体制を整備し、掲載に関する内部手続きを一元化・標準化することで見やすさの向上や迅速な情報発信を行っている。情報発信の方法としては、広報誌、ホームページ、SNSや動画サイトを活用し、法人情報、教育研究活動、地域貢献活動など、幅の広い情報発信について精力的に取り組んでおり、目標を上回る成果を出している。

教育研究の成果を地域及び社会に還元するため、展覧会、演奏会、研究成果発表会、公開講座、移動大学、などを精力的に実施しており、目標を上回る成果を出している。

また、首里城復興にかかる彫刻製作など、大学の資源を活用することで貢献しており、自治体、地域、企業等との連携についても成果を出している。

外部研究資金の獲得に向けては、採択実績のある実技系教員を講師とする申請講座の開設、オンデマンド視聴対応などの取り組みを行うことで、応募者の増につなげるなど、成果を上げている。

3 第1期中期目標に関する課題（改善すべき点）

ハラスメント等の人権侵害を防止するため、教職員を対象とした研修の実施やハラスメント防止対策委員の設置などに取り組んでいるが、中期目標期間内にハラスメント事案が発生しており、更なる取り組みが必要である。

また、学生への支援の一環として学生相談を行っているが、人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生とのコミュニケーションを普段からもっと密にするなど、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実に取り組んでいただきたい。

4 次期中期目標に向けた法人への要望

令和6年度までの法人運営については着実に進捗しているが、学生への支援について取り組みを強化するとともに、引き続き中期目標の達成に向け、教育研究及び大学運営に取り組んでいただきたい。

また、財務内容の改善に向けて、大学は外部資金の新規獲得や自己収入の増加等の取組を強化しているものの、厳しい経営状況にあることから、国や県などと協議を行い必要な財源の確保に努めるとともに、さらなる経営努力による自主財源の確保に取り組んでいただきたい。

Ⅱ 項目別評価

Ⅱ 項目別評価

1 業務実績の検証

項目別評価を実施するに当たって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。

検証に当たっては、中期計画に記載されている各項目の業務の進捗状況及び成果について、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。

検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

2 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗状況及び成果を小項目ごとに1～5の5段階で評価し、中項目ごとにまとめた。

評価	評価	説明
1	中期目標の達成状況が極めて良好である。	中期計画を大幅に上回って実施しているもの、あるいは顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	中期目標の達成状況が良好である。	中期計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは中期計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	中期目標の達成状況が概ね良好である。	中期計画に記載された事項を概ね100%計画通り実施したもの
4	中期目標の達成状況がやや不十分である。	中期計画を計画通り実施しなかったもの、あるいは実績・成果が中期計画を下回っているもの
5	中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。	評価委員会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、戦略性が高く意欲的な中期計画を定めて、実績又は成果を挙げたもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった中期計画について達成したもの 等

3 業務実績等報告書の各項目ごとの評価

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 教育の内容に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
(2) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	3	2	(2)	2			
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
(1) 教育の内容に関する目標を達成するための措置 【数値目標①】大学の志願倍率の維持向上 2.3倍 / 毎年度 【数値目標②】大学院の志願倍率の維持向上 1.5倍 / 毎年度	大学の志願倍率 達成見込 98.9% 大学院の志願倍率 達成見込 143.3%
(2) 教育の成果に関する目標を達成するための措置 【数値目標③】学部卒業生の輩出 96人 / 毎年度 【数値目標④】大学院修了生の輩出 35人 / 毎年度	学部卒業生の輩出 達成見込 110.4% 大学院修了生の輩出 達成見込 112.9%
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑤】FD・SD研修会の参加率向上 100% / 最終年度	FD研修会の参加率 達成見込 103.2% SD研修会の参加率 達成見込 97.4%
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑥】就職希望者の就職率 学部卒業生 77.3% / 最終年度 大学院修了生 83.4% / 最終年度	学部卒業生の就職率 達成見込 111.9% 大学院修了生の就職率 達成見込 106.8%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

ディプロマ・ポリシーの記載内容の点検、カリキュラムマップ及びコースツリーとの整合性・一貫性を確認することで、卒業時・修了時の調査において学修成果を概ね得られており、教育の成果について目標を上回る成果を出している。

また、キャリア教育、企業説明会、インターンシップなどを実施することで、学生へのきめ細やかな就職支援を行っており、就職率の向上について成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

学生相談の体制については、新入生へのガイダンスや学生支援システムによる相談室等のスケジュール掲載だけでなく、人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生とのコミュニケーションを普段からもっと密にするなど、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実に取り組んでいただきたい。

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置	2	2	(2)	2			
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況		
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑦】外部研究資金の導入 外部研究資金の応募率 19.2% / 最終年度 外部研究資金の導入件数 12件 / 毎年度	外部研究資金の応募率	達成見込	124.7%
	外部研究資金の導入件数	達成見込	187.5%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

外部研究資金の採択実績のある実技系教員が講師となり解説を行う申請講座を開設し、併せてオンデマンド視聴にも対応することで、応募者の増につなげるなど、外部資金の獲得に向けた取り組みを強化しており、成果を上げている。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 社会貢献等に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 社会貢献に関する目標を達成するための措置	3	2	(3)	2			
(2) 国際交流等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
(1) 社会貢献に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑧】公開講座、公開授業、移動大学等開催数 38件 / 最終年度 【数値目標⑨】展覧会、演奏会、定期公演等開催数 63件 / 毎年度 【数値目標⑩】自治体、地域、企業等との連携事業数 38件 / 毎年度	公開講座、公開授業、移動大学等開催数 達成見込 126.0% 展覧会、演奏会、定期公演等開催数 達成見込 128.6% 自治体、地域、企業等との連携事業数 達成見込 153.9%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

教育研究の成果を地域及び社会に還元するため、展覧会、演奏会、研究成果発表会、公開講座、移動大学、などを精力的に実施しており、目標を上回る成果を出している。

また、首里城復興にかかる彫刻製作など、大学の資源を活用することで貢献しており、自治体、地域、企業等との連携についても成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 (1) 学長となる理事長を中心とする運営体制の構築	3	3	(3)	3			
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 (2) 戦略的な予算等の配分	3	3	(3)	3			
2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
4 事務等の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

	R3 評価	R4 評価	R5 評価※	R6 評価※	R7 評価	R8 評価	中期 目標 期間 評価
1 外部研究資金その他の進捗収入の増加に関する目標を達成するための措置	2	2	(2)	2			
2 経費の効率化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 資産の適正な運用管理に関する目標を達成するための措置			(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
1 外部研究資金その他の進捗収入の増加に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑦】外部研究資金の導入 外部研究資金の応募率 19.2% / 最終年度 外部研究資金の導入件数 12件 / 毎年度 再掲（第1-2(1)【数値目標⑦】）	外部研究資金の応募率 達成見込 124.7% 外部研究資金の導入件数 達成見込 187.5%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評価説明】

(1) 優れた点・特色ある点

外部研究資金の採択実績のある実技系教員が講師となり解説を行う申請講座を開設し、併せてオンデマンド視聴にも対応することで、応募者の増につなげるなど、外部資金の獲得に向けた取り組みを強化しており、成果を上げている。（再掲）

(2) 更なる充実が期待される点

財務内容の改善に向けて、国や県などと協議を行い必要な財源の確保に努めるとともに、自主財源の確保に取り組んでいただきたい。

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 自ら行う点検及び評価の充実に係る目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置	2	3	(2)	2			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 【数値目標①】大学のホームページ等のアクセス数の維持向上 140,200件 / 最終年度	大学のホームページ等のアクセス数 達成見込 112.0%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

情報公開の推進について、学内に広報委員会を設置し組織的な広報推進体制を整備し、掲載に関する内部手続きを一元化・標準化することで見やすさの向上や迅速な情報発信につながった。

また、広報誌、ホームページ、SNSや動画サイトを活用し、法人情報、教育研究活動、地域貢献活動など、幅の広い情報発信について精力的に取り組んでおり、目標を上回る成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 施設設備の整備及び活用等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
2 安全管理等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	4			

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

ハラスメント等の人権侵害を防止するため、教職員を対象とした研修の実施やハラスメント防止対策委員の設置などに取り組んでいるが、中期目標期間内にハラスメント事案が発生しており、更なる取り組みが必要である。

また、学生への支援の一環として学生相談を行っているが、人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生とのコミュニケーションを普段からもっと密にするなど、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実に取り組んでいただきたい。

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

上記(3)のとおり。

Ⅱ 項目別評価

1 業務実績の検証

項目別評価を実施するに当たって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。

検証に当たっては、中期計画に記載されている各項目の業務の進捗状況及び成果について、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。

検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

2 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗状況及び成果を小項目ごとに1～5の5段階で評価し、中項目ごとにまとめた。

評価	評価	説明
1	中期目標の達成状況が極めて良好である。	中期計画を大幅に上回って実施しているもの、あるいは顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	中期目標の達成状況が良好である。	中期計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは中期計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	中期目標の達成状況が概ね良好である。	中期計画に記載された事項を概ね100%計画通り実施したもの
4	中期目標の達成状況がやや不十分である。	中期計画を計画通り実施しなかったもの、あるいは実績・成果が中期計画を下回っているもの
5	中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。	評価委員会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、戦略性が高く意欲的な中期計画を定めて、実績又は成果を挙げたもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった中期計画について達成したもの 等

3 業務実績等報告書の各項目ごとの評価

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 教育の内容に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
(2) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	3	2	(2)	2			
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
(1) 教育の内容に関する目標を達成するための措置 【数値目標①】大学の志願倍率の維持向上 2.3倍 / 毎年度 【数値目標②】大学院の志願倍率の維持向上 1.5倍 / 毎年度	大学の志願倍率 達成見込 98.9% 大学院の志願倍率 達成見込 143.3%
(2) 教育の成果に関する目標を達成するための措置 【数値目標③】学部卒業生の輩出 96人 / 毎年度 【数値目標④】大学院修了生の輩出 35人 / 毎年度	学部卒業生の輩出 達成見込 110.4% 大学院修了生の輩出 達成見込 112.9%
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑤】FD・SD研修会の参加率向上 100% / 最終年度	FD研修会の参加率 達成見込 103.2% SD研修会の参加率 達成見込 97.4%
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑥】就職希望者の就職率 学部卒業生 77.3% / 最終年度 大学院修了生 83.4% / 最終年度	学部卒業生の就職率 達成見込 111.9% 大学院修了生の就職率 達成見込 106.8%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

ディプロマ・ポリシーの記載内容の点検、カリキュラムマップ及びコースツリーとの整合性・一貫性を確認することで、卒業時・修了時の調査において学修成果を概ね得られており、教育の成果について目標を上回る成果を出している。

また、キャリア教育、企業説明会、インターンシップなどを実施することで、学生へのきめ細やかな就職支援を行っており、就職率の向上について成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

学生相談の体制については、新入生へのガイダンスや学生支援システムによる相談室等のスケジュール掲載だけでなく、人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生とのコミュニケーションを普段からもっと密にするなど、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実に取り組んでいただきたい。

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置	2	2	(2)	2			
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑦】外部研究資金の導入 外部研究資金の応募率 19.2% / 最終年度 外部研究資金の導入件数 12件 / 毎年度	外部研究資金の応募率 達成見込 124.7% 外部研究資金の導入件数 達成見込 187.5%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

外部研究資金の採択実績のある実技系教員が講師となり解説を行う申請講座を開設し、併せてオンデマンド視聴にも対応することで、応募者の増につなげるなど、外部資金の獲得に向けた取り組みを強化しており、成果を上げている。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 社会貢献等に関する目標を達成するための措置	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
(1) 社会貢献に関する目標を達成するための措置	3	2	(3)	2			
(2) 国際交流等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
(1) 社会貢献に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑧】公開講座、公開授業、移動大学等開催数 38件 / 最終年度 【数値目標⑨】展覧会、演奏会、定期公演等開催数 63件 / 毎年度 【数値目標⑩】自治体、地域、企業等との連携事業数 38件 / 毎年度	公開講座、公開授業、移動大学等開催数 達成見込 126.0% 展覧会、演奏会、定期公演等開催数 達成見込 128.6% 自治体、地域、企業等との連携事業数 達成見込 153.9%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

教育研究の成果を地域及び社会に還元するため、展覧会、演奏会、研究成果発表会、公開講座、移動大学、などを精力的に実施しており、目標を上回る成果を出している。

また、首里城復興にかかる彫刻製作など、大学の資源を活用することで貢献しており、自治体、地域、企業等との連携についても成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 (1) 学長となる理事長を中心とする運営体制の構築	3	3	(3)	3			
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 (2) 戦略的な予算等の配分	3	3	(3)	3			
2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
4 事務等の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

	R3 評価	R4 評価	R5 評価※	R6 評価※	R7 評価	R8 評価	中期 目標 期間 評価
1 外部研究資金その他の進捗収入の増加に関する目標を達成するための措置	2	2	(2)	2			
2 経費の効率化に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 資産の適正な運用管理に関する目標を達成するための措置			(3)	3			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
1 外部研究資金その他の進捗収入の増加に関する目標を達成するための措置 【数値目標⑦】外部研究資金の導入 外部研究資金の応募率 19.2% / 最終年度 外部研究資金の導入件数 12件 / 毎年度 再掲（第1-2(1)【数値目標⑦】）	外部研究資金の応募率 達成見込 124.7% 外部研究資金の導入件数 達成見込 187.5%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評価説明】

(1) 優れた点・特色ある点

外部研究資金の採択実績のある実技系教員が講師となり解説を行う申請講座を開設し、併せてオンデマンド視聴にも対応することで、応募者の増につなげるなど、外部資金の獲得に向けた取り組みを強化しており、成果を上げている。（再掲）

(2) 更なる充実が期待される点

財務内容の改善に向けて、国や県などと協議を行い必要な財源の確保に努めるとともに、自主財源の確保に取り組んでいただきたい。

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》

第4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 自ら行う点検及び評価の充実に係る目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置	2	3	(2)	2			

◆数値目標 ※上記評価項目に含む	達成見込／進捗状況
2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 【数値目標①】大学のホームページ等のアクセス数の維持向上 140,200件 / 最終年度	大学のホームページ等のアクセス数 達成見込 112.0%

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評定説明】

(1) 優れた点・特色ある点

情報公開の推進について、学内に広報委員会を設置し組織的な広報推進体制を整備し、掲載に関する内部手続きを一元化・標準化することで見やすさの向上や迅速な情報発信につながった。

また、広報誌、ホームページ、SNSや動画サイトを活用し、法人情報、教育研究活動、地域貢献活動など、幅の広い情報発信について精力的に取り組んでおり、目標を上回る成果を出している。

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

《中期計画》
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

	R3 評定	R4 評定	R5 評定 ※	R6 評定 ※	R7 評定	R8 評定	中期 目標 期間 評定
1 施設設備の整備及び活用等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
2 安全管理等に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	3			
3 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置	3	3	(3)	4			

※ 令和5年度は県立芸大による自己評価、令和6年度は最終年度見込評価

【評価説明】

(1) 優れた点・特色ある点

(2) 更なる充実が期待される点

(3) 改善すべき点

ハラスメント等の人権侵害を防止するため、教職員を対象とした研修の実施やハラスメント防止対策委員の設置などに取り組んでいるが、中期目標期間内にハラスメント事案が発生しており、更なる取り組みが必要である。

また、学生への支援の一環として学生相談を行っているが、人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生とのコミュニケーションを普段からもっと密にするなど、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実に取り組んでいただきたい。

(4) 法人の自己評価と異なる点とその理由（異なる場合のみ記載）

上記(3)のとおり。